

中琉関係論文目録データベースの作成

赤嶺守：琉球大学法文学部

明治の琉球処分後、長く秘密文書として扱われ久米村に保管されていた王国時代の外交文書『歴代宝案』が、1931（昭和6）年に王朝時代の法制史料を探していた商業学校の教師仲元英昭によって、偶然久米村の神村家に所蔵されていることが判明した。これは中琉関係史研究を推進する意味でセンセーショナルな大発見であった。戦前、この『宝案』史料は日本の南進政策ともからみ、琉球の対外関係史研究の一大ブームをつくり、小葉田淳著『中世南島通交貿易史の研究』、伊藤忠太・鎌倉芳太郎著『南海古陶瓷』、秋山謙蔵著『日支交渉史研究』、東恩納寛惇著『黎明期の海外交渉史』、安里延著『日本南方発展史』といった多くの研究成果が刊行されている。

戦後は対外関係史研究は一時冷え込むが、祖国復帰運動の展開にともなって、琉球帰属問題に関わる琉球処分を機軸に研究がおこなわれ、『日本外交文書』や『光緒朝中日交渉史料』『清季外交史料』『李文忠公全集』といった既刊の国内外の外交関連史料や国会図書館憲政資料室、国立公文書館等で新たに発掘された史料を利用した多くの研究成果が出ている。

最近では「対外関係史研究」は中琉歴史関係国際学術会議が台北、沖縄、福州、北京と開催地を変えて行われ、中国・台湾の研究者も加わり歴史学を中心に文学、民俗、考古、芸能といった様々な分野に研究の裾野を広げつつある。また中国第一歴史档案馆所蔵の中琉関係档案をまとめた『清代中琉関係档案選編』『清代中琉関係档案続編』『清代中琉関係档案三編』『清代中琉関係档案四編』といった史料も次々に刊行され、また台北でも故宮博物院、中央研究院の歴史語言研究所・近代史研究所所蔵の中琉関係資料が発掘される中で、中琉関係史研究は実証的な深みを帯びたものになってきている。

「琉球・沖縄の対外関係史」研究班（研究代表者：金城正篤）では『歴代宝案』『清代中琉関係档案続編』『中山世譜』の本文テキスト及びデータベースの作成を進めているが、同時に国内・中国・台湾の各種文献目録に散見する中琉関係研究論文を一括収録し歴史情報として提供するデータベースの作成も併せておこなった。「中琉関係論文目録データベース」は日本語・中国語で書かれた論文に限定し項目は以下の「著者」「論文名」「雑誌名」「発行年」「発行年」「巻・号」「言語」「分類」「備考」の9項目を設定した。

著者：著者名（簡体字・繁体字は常用漢字になおした）

論文名：学術論文以外にも「解題」や全集の「付録」等も収録した（簡体字・繁体字は常用

漢字になおした)

雑誌名：雑誌の中には「青い海」といった学術刊行物以外の雑誌も一部収録した(簡体字・繁体字は常用漢字になおした)

発行年：発行年

発行月：発行月

巻・号：巻・号以外に「期」「月号」といった表記も全てこの項目に含めた

言語：日本語は「日文」、中国語は「中文」で表記した

分類：歴史・文学・民俗・考古・芸能・服飾等

備考：説明事項、一部必要に応じて出版社名もこの項目で示した